

茶屋町と言えは、「鬼」。鬼と言えは、「秋まつり」。

学び伝え 育てよう

茶屋町鬼新聞

発行所
倉敷市立茶屋町小学校
6年2組

(三宅 隆太)

発行日
令和()年
()月()日

伝統民俗文化

茶屋町の鬼



茶屋町の鬼の由来とは？

吉備津神社の温羅伝説にさかのぼる

「温羅伝説」

吉備の国に城を築いた百済の王子、温羅は、乱暴もので、人々に恐れられていた。その温羅を征伐しようと大和朝廷は、五十狭芥命を送り込み、温羅との合戦が始まった。五十狭芥命は、戦いに勝った。五十狭芥命は、吉備津彦命となり、温羅は、家来として従うことになった。のちに、命が、祭神としてまつられると、温羅は随神として本殿の丑寅の一角に、良御崎(うしろみさき)としてまつられた。

◎矢喰神社

◎鯉喰神社

◎吉備津神社

温羅との戦いで、命が放った矢が温羅の投げる岩にはばまれ、落ちたところである。

命が放った2本の矢のうち、1本が温羅の眼に命中し、眼から血が溢れ、追われた温羅は鯉に化け、逃げ命は、鵜になつて温羅に喰いついた。

首をはねられた温羅のうなりが、いつまでも続いたが、夢枕にでてきた温羅の言葉に従って、釜をたかせること、うなりが止まった。このことから吉備津神社の吉凶点の鳴釜の神事となっている。



矢喰神社(岡山市北区高塚)



鯉喰神社(倉敷市矢部)



吉備津神社御竈殿内部

◎茶屋町の鬼はいつどこから来たの？

1707年、茶屋町は、干拓によって陸地になり、早島、帯江から移住した人々によって鬼の風習が伝えられたと思われる。

◎早島の鶴崎神社の氏子の風習

鶴崎神社は、御崎様とも言われ、吉備津彦命をおまつりしているが、あわせて良御崎も祭神となっており、うらにちなんで鬼面をつけて、村の中を練り歩いた。

◎1709年、早島新田村に住吉神社神殿

◎1733年、帯江新田村に稻荷神社神殿

この時、はじめて祭りをした。この時、住吉神社、稻荷神社の社殿新築。村人のくらしが豊かになり始めた。

◎氏神様の秋祭りに鬼の習わし始まり

(干拓されて80年後)

☆鬼の風習は、200年以上続いている。

↓そして、鬼の秋祭り、鬼まつりと言ふようになった。

1856年、御神幸(行列)がくり出された。開墾から150年後のことである。

1975年、茶屋町の鬼保会発足。時代の変化という事柄で消えてしまつた鬼を復活させよう有志9名が立ち上がった。

◎みんなで育てていこましよう

へ鬼の風習を伝える学びの場

幼稚園

鬼まつり参加

鬼の面作り

保育園

秋まつり参加

鬼まつり参加

茶屋町小学校

鬼太鼓クラブ、150周年記念像が鬼新校舎が鬼の顔 ち鬼れ誕生

編集後記 茶屋町の鬼の由来を調べて、温かく、どこかゆかいな鬼は、いつも茶屋町の人々の心に寄り添い、塩害や日照りで水に苦しんだ時、米作に苦勞し、貧乏の中にあった時、病に苦しんだ時、人々の生活が豊かになるように氏神様とともに私たちの生活を見守って来てくれた。茶屋町の鬼は時代を越えて、先人たちの苦勞、工夫、未来への想いを今を生きる僕たちに語り伝えてくれています。緑豊かな水田広がるのどかな町、茶屋町の秋、今あるのは、先人たちのおかげです。温故知新、さらに100年後の茶屋町も豊かで魅了的な町であるより茶屋町の鬼を守り、伝え、育てていきたいです。



茶屋町公民館に展示された園児の鬼面